

事業番号	05 05 10		事業改善シート（28年度実施事業分）			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	(信州ACE(エース)プロジェクト関連) 健康ボランティア活動強化事業					担当課	部局	健康福祉部	
							課・局・室	健康増進課	
総合5か年計画	プロジェクト	4－1－5 健康づくり・医療充実プロジェクト					E-mail	kenko-zoshin@pref.nagano.lg.jp	
	施策の総合的展開	6－1 健康で長生きできる地域づくり							
			1 保健活動の推進				実施期間	H25 ～	
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	5－4 賑わいのある快適な健康長寿のまち・むらづくり							
	施策展開	4－（3）地域の絆に立脚する「しあわせ健康県」の実現 ア 健康づくりの促進							

1 事業の概要

目指す姿	食の改善をはじめとする健康的な生活の実践者として、地域で健康ボランティアとして活動する食生活改善推進員が、市町村や地域の食に関する関係者と協働して活発に活動することにより、地域住民の健康づくりが推進される。 成果目標：食育ボランティア数 17,338人(H23)→20,000人(H29) [内閣府調査]											
現状 (予算編成時)	・「保健補導員」や「食生活改善推進員」などによる住民自身の健康づくり活動が本県の長寿日本一の大きな要因のひとつと分析されている。 ・食生活改善推進員は高齢化等により会員が減少 ピーク時：7,400人余り ⇒ 約3,500人(H27) ・県民参加の健康づくりを進める環境を整えるため、食生活改善推進員の育成を支援し、活動を強化するとともに、食生活改善推進員の高齢化や活動の市町村格差に対応するため、その活動を支援する仕組みを検討する必要がある。											
県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)			【左記の説明、根拠法令等】 食育基本法第22条の2、健康増進法第5条、県食育推進計画、信州保健医療総合計画(第2次県健康増進計画)、地域保健対策の推進に関する基本的な指針(平成24年7月31日厚生労働省告示)								
	県民との協働による実施： 実施中											
成果目標・事業内容	① 成果目標(H28) <div>・食育ボランティア数 19,500人 [内閣府調査] (設定理由：食に関するボランティア活動の促進を図るため、総合5か年計画の達成目標(H29)を踏まえて、各年度ごとに設定した値(H28)を目標として設定)</div>											
	② 事業内容 (単位：千円)											
	項目		実施方法	H28事業実績			H28		H29			
							(当初)	(決算)	(当初)			
	1. 食生活改善推進員ステップアップ研修会		直接	食生活改善推進員が地域の健康づくりの課題を理解し、その解決のための取組の実践者としての活動ができるよう、支援するための研修会の開催(37回/10圏域)			532	174	532			
	2. ヘルスメイト活動強化会議		直接	県内各広域で活動している食生活改善推進員と養成・育成を担う行政が一堂に会し、活動事例や課題について情報交換を行うとともに、活動の強化につながるような取組について検討			136	44	136			
				合計		668	218	668				
事業コスト	区分(単位：千円)		27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況						
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29目標
		当初予算	731	668	668				目標	成果	達成状況	
		補正予算				食育ボランティア数	17,931人	18,370人	19,500人	18,522人	未達成	—
		合計(A)	731	668	668							
	Aの財源	一般財源	366	334	334							
		県債										
		国庫支出金	365	334	334							
		その他	0	0	0							
	決算額(B)		301	218								
概算人件費	職員数(人)	1.50	1.50	1.50								
	概算人件費(C)	12,414	11,871	11,871								
概算事業費(B(A)+C)		12,715	12,089	12,539								
目標に対する成果の状況	食育ボランティアの中で多くを占める食生活改善推進員が会員の高齢化等により大幅に減少しているが、食育に取り組む地域の団体などの食育ボランティア数は増加している。引き続き、食生活改善推進員の養成及び育成を行い、食生活改善推進員と若年世代との交流を通じて若年世代の食育ボランティアの増加を目指す。											

目標に対する成果の状況	食育ボランティアの中で多くを占める食生活改善推進員が会員の高齢化等により大幅に減少しているが、食育に取り組む地域の団体などの食育ボランティア数は増加している。引き続き、食生活改善推進員の養成及び育成を行い、食生活改善推進員と若年世代との交流を通じて若年世代の食育ボランティアの増加を目指す。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	県民参加の健康づくりを進める環境を整えるため、引き続き食生活改善推進員の養成・育成を支援し、食生活改善推進員による企業・高校訪問によって若い世代への普及啓発を推進する。食生活改善推進員の高齢化や活動の市町村格差に対応するため、若年世代のボランティアとの交流等、活動強化につながるような支援について検討していく。